

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校 | 学校番号 | 27

1 学校教育目標	<p>誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と豊かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。</p> <p>このことを実現するために、次の4項目を重点として定めている。</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進</p> <p>(2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進</p> <p>(3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進</p> <p>(4) 地域に開かれた信頼される学校づくり</p>
----------	--

2 評価する領域・分野	(1) 教育課程・学習指導
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>【生徒対象のアンケート結果】</p> <p>(1) 「先生は熱心に学習指導や生徒指導に取り組んでいる」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 90%(H24) → 85%(H25) → 90%(H26) → 89%(H27)</p> <p>(2) 「先生は専門的知識が豊富で授業内容を信頼できる」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 92%(H24) → 89%(H25) → 88%(H26) → 91%(H27)</p> <p>(3) 「先生は授業の教え方や説明がわかりやすい」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 85%(H24) → 82%(H25) → 84%(H26) → 76%(H27)</p> <p>(4) 専門分野の学習について、「(工業の専門分野を学ぶ)実習や課題研究の授業は有意義である」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 57%(H24) → 89%(H25) → 90%(H26) → 87%(H27)</p> <p>・上記が、生徒へのアンケートの主要4項目の状況である。各教員が熱心に指導し、それを多くの生徒が好意的に受け止めている状況が見られるが、(1)(2)(4)については、90%前後でとどまってしまう。より一層高いレベルを目指す(100%に近づける)取組が必要である。</p> <p>・(3)については、本年度、明らかに低下している状況である。「授業改善」への取組強化が必要である。</p> <p>【保護者対象のアンケート結果】</p> <p>(1) 「学校は、工業の専門的な技術の習得ができるような指導を行っている」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 82%(H24) → 96%(H25) → 96%(H26) → 96%(H27)</p> <p>(2) 「教職員は授業を通して学力が向上するように指導している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 ※(H24) → 82%(H25) → 87%(H26) → 85%(H27) ※H24は設問なし</p> <p>・上記が、保護者へのアンケートの主要2項目の状況である。(1)の工業の専門的な技術の習得の指導に関しては、3年連続で96%と高いレベルを維持している。</p> <p>・(2)の教職員の学習指導の状況については、80%台が続いている。職員会議で、各教職員へのこの状況を伝え改善の方策を練るなど、100%に近づける取組を強化していく必要がある。</p>

4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業規律の確立 ◇授業改善（わかりやすい授業、楽しい授業の実現） ◇生徒の基礎学力の向上		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・授業規律の確立は、教務部と生徒指導部が連携して推進 ・授業改善は、教務部が中心となって推進 ・生徒の基礎学力の向上は、教務部と進路指導部が連携して推進		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 授業規律確立 (昨年度から継続して取組中) (2) 公開授業Week、教育委員会訪問、各種研究授業等の機会を活用した授業改善 (3) 生徒の基礎学力向上のための朝学習(キャリアタイム)	(1) 生徒対象のアンケートの結果 生徒の学習面の成績の状況 (2) 同上 (3) 生徒の基礎学力診断テスト等の結果		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・授業規律確立（全職員が協力して、昨年度から継続して実施中） ・授業改善（わかりやすい授業、楽しい授業の実現のために全教職員が実践中） ・生徒の基礎学力向上のための朝学習(キャリアタイムの名称で年間を通して実施中) ・学習の遅れがちな生徒を支援し全単位修得を目指す取組(学習特別指導や放課後学習会を定期的に実施中)	①各クラスの授業規律が向上したか。 ②生徒を対象とするアンケートの結果が向上したか。 ③基礎学力診断テスト等の結果が向上したか。 ④成績不良科目数が減ったか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A B (C) D	
11 成果・課題	○毎日の朝学習(キャリアタイム)は定着しており、各生徒が点数を競い合っており、お互いに切磋琢磨するなど、学習習慣の確立と学習意欲の向上の一助となる場面が多く見られる。 ○授業規律の確立については、授業規律の一層の向上を目指して、全教職員が協力して取り組んだことにより、改善の方向へ進んでいる。しかし、まだ一部のクラス及び生徒に、授業中の居眠りや私語などが見られるので、今後も継続的に取り組む必要がある。 ▲「わかりやすい授業の展開」のために、各教員が創意工夫して授業改善を行ってきた。視聴覚機器の使用、現物提示、適切な教材の利用等の工夫も行ってきた。しかし、本年度の全校生徒に対するアンケートで、「先生は授業の教え方や説明がわかりやすい」という問いに、「あてはまる」と回答した生徒は、76%(前年比-8%)にとどまっている。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・授業規律の確立に向けた取組を、今後も継続する。 ・「わかりやすい授業の展開」のための授業改善については、公開授業Week、学校公開日(保護者による授業参観)、教育委員会訪問、ICT教育の充実、各種研究授業等の機会を活用して授業改善活動を実施する。			

学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月26日

【意見・要望・評価等】

- ・学習指導の各アンケートにおいて、90%という高い評価を得ているにもかかわらず、100%を目指す取組をされているのに感心した。
- ・生徒への働きかけなど、難しい面があるだろうが、先生方の努力は評価できる。
- ・普通教科、専門教科の両方を学ぶのは大変だが、英語の授業参観では、英語の先生三人がグループ指導され、英会話で質問し、発表する様子が楽しそうに見えた。外国の先生から聞く英会話に耳慣れし生きた英語の授業だった。仕事で海外勤務をする際には役に立つ。

2 評価する領域・分野	(2) 生徒指導 (含教育相談)	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>《各種アンケートの結果より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーや規範意識に関する指導を行っているかどうかについて「よくあてはまる」と回答した生徒が67%であった。生徒自身が強く感じていることがよい結果につながっている。 ・生徒指導理解について「よくあてはまる」の回答が保護者より生徒の方が、ポイントが高い事がわかった。 ・体罰防止については「全く当てはまらない」と回答している生徒が0%なのに対し、保護者が3%であった。 ・携帯電話の使用時間が2時間以上の生徒が約30%いる。 <p>《分析》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立について確立しつつある。創立90周年が契機となり本校の教育目標に近づいている。今後は、継続できるように支援していきたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇基本的な生活習慣の育成 (欠席・遅刻指導) 校門で遅刻防止指導 (20分指導) を行う。始業前チャイムの活用。 ◇授業規律の徹底 私語、居眠りをさせない。授業時の指導を全職員で行う。 ◇交通安全指導 自転車通学者に対し並進しない、校門の手前で一旦停止する、定期的に二重ロック指導を実施する。各学年で交通安全教室を実施する。 ◇身だしなみ指導 定期的に身だしなみ指導を実施する (年7回)。体育館において全職員でチェックする。 ◇ケータイ指導 携帯電話の持ち込みには申請書を提出させる。情報モラル教育は人権教育でもありととらえ、外部講師による講話や保護者と協力して意識の涵養をした。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による組織的な指導を展開する。 特別支援教育委員会、教科担任会、各学科・教科内会議 ・注意、指導記録を全職員で共有する。 相談しやすい雰囲気をつくり早い段階で情報共有する。 ・いじめに関する調査や研修を充実し、早期発見と未然防止に努める。 迷惑調査、いじめ調査、懇談週間、いじめに関する職員研修 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 全職員による「登校指導、交通安全指導、身だしなみ指導」を行い規範意識の向上を図り、あいさつを励行する。</p> <p>(2) 長休業明けに主任による登校指導を率先して行い適応指導と8時20分入室完了の徹底を行う</p> <p>(3) 年7回身だしなみ指導を実施し、正しい姿・姿勢で学校生活を送る基礎を築く。</p> <p>(4) 凡事指導を行い、日常的な生活習慣の確立と授業規律の向上を図る。</p> <p>(5) 迷惑調査や生活実態調査、交通安全実態調査などを行い在校生の実態を把握する。</p> <p>(6) いじめに関する調査と研修を行いいじめの実態把握と早期対応を図る。</p> <p>(7) 保護者との連携(学校メールなど)を。る。</p>	<p>(1) 欠席や遅刻が昨年度より減少できたか。 登校時の挨拶がしっかりできているか。 自転車通学者が交通ルールを守っているか。</p> <p>(2) 8時20分入室完了が守られているか。 始業3分前準備完了が守られているか。</p> <p>(3) 身だしなみ再指導生徒が減少しているか。 普段の身だしなみ、規律が徹底できたか。</p> <p>(4) 落ち着いた雰囲気です授業に臨んでいるか。 累積指導カードが指導の共通理解に貢献できているか。</p> <p>(5) あらゆる活動で、担任・学科・学年・学校全体が連携して指導に取り組めたか。各種調査結果と生徒の実態にギャップが生じていないか。</p> <p>(6) いじめの早期発見と対応ができているか。</p> <p>(7) 学校の取り組みが保護者に伝わっているか。</p>	

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・校門指導、交通安全指導を全職員で分担し自転車安全指導やマナー指導を行った。 ・授業日には風紀委員による交通安全指導、各クラスによるあいさつ運動を行なった。 ・のびのびプロジェクト（11月）や無事故無違反コンテストを通して啓発活動を行なった。 ・学年会毎に、全クラスの身だしなみ指導を行い統一した基準で規範意識を身につけさせた。 ・「累積指導カード」を活用し授業規律や規範意識チェックと担任、学科、学年と連携した生徒の指導育成にあたった。 ・本校の行事や啓発活動をメールにより保護者にも配信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①組織的に登校指導、身だしなみ指導を行うことができたか ②欠席や遅刻を減少させることができたか ③生徒は進んで挨拶できているか ④授業規律が徹底できているか（私語、居眠り） ⑤身だしなみを常日頃から整えられているか ⑥学校全体での職員間の連携が取れたか ⑦学校の取り組みに対し保護者の理解が得られたか 	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
<p>11 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年会を中心とした身だしなみ指導が定着し指導基準の統一と公平性を保つことができた。（再指導の生徒が激減した） ○携帯電話等持込申請制により、ケータイの規律（校内では使用しない）が定着してきた。また、保護者と協力して指導できる体制ができた。 ○特定の生徒が遅刻・欠席することがあったが、遅刻総数は昨年度より減少した。 ○授業中にホックをする等、授業規律が守れる生徒が増加した。 ▲雨天時は多くの生徒が雨カッパを着用して自転車登校しているが、保護者に送ってもらう生徒が増えたのは残念である。 ▲ツイッター等への投稿に対し、肖像権など人権に配慮することが意識できていない生徒がいた。 		<p>総合評価</p> <p>(A) B C D</p>

学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯・スマートフォンの扱いは、難しいところであるが、状況をみながら適宜、的確な形で実施している今の手法が最善と思う。 ・学校を訪問させて頂いた際にも、在校生の挨拶は、大きく元気な声で、礼儀正しくされており、感心した。 ・いじめに関しては、潜在的に行われることが多いため、早期発見が課題とされていることは正しい判断だと思う。 ・体育館での集合等、早く静かになり、身だしなみ等も質素で好感が持てる。 ・アンケートの結果からみても、生徒との信頼関係が築かれていることがわかる。 ・下校時の携帯電話の使用が少なくなった。
--

2 評価する領域・分野	(3) 進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望に沿った進路指導のために進路情報の提供や進路啓発、進路希望調査やガイダンス等によりきめ細かい指導を推進する。 ・基礎学力の定着と向上のために基礎力診断テストを活用し、本校生徒の学力分析により課題を見つけ、より良い進路選択を目指す。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇教務部や学年会と連携し、朝学習の時間を活用して基礎学力の再構築を推進 ◇全生徒に全職員の協力によるインターンシップを実施することにより、キャリア教育を推進 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会および教務と連携を密にしての進路行事推進 ・主任会での意見交換と連携調整をしての進路行事推進 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 学び直しによる基礎学力や面接指導の強化 (2) 大垣商工会議所の支援を得て、地元企業と連携し、校内で地域企業展を実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 就職・進学希望者の内定・合格の達成度 (2) 生徒の進路意識アンケート結果を基にした、進路開拓と進路先のデータ化による状況把握 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習に基礎学力の再構築と向上を目指した学習を取り入れ、全学年で基礎力を診断するテストにより、その定着度と自己診断を実施 ・外部講師による講話とガイダンスを実施 ・大垣地域合同企業展の開催による地域企業連携とキャリア教育の推進を実施 ・2年生にインターンシップ事業を実施 ・進学希望者にガイダンスを定期的実施 ・就職面接指導と進学面接指導を分けて実施 ・ハローワーク主催の就職特別面接指導を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学力補充による生徒の基礎学力向上に繋がっているか ② 生徒の進路実現への目標設定に貢献できたか ③ 生徒の地元企業の活動に対する理解や職業観が深まったか ④ 面接指導等で、生徒のコミュニケーション力は向上したか ⑤ 実践したことが、キャリア教育に繋がっているか 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D A (B) C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	総合評価	
<p>○今年も12月までに就職・進学とも、ほぼ希望を叶えさせることができました。</p> <p>△今年度も引き続き朝学習で学び直し学習を重点的に実施し、基礎力を診断するテストを目標にさせることで、基礎学力の向上を目指す指導ができた。</p> <p>○進学者には進学対策のため外部模試の受験を課し、さらに工業系四大指定校希望者には、英検を受験することを条件に改定し、進学後に身になるような学習対策とすることにより、学習姿勢への高揚を図ることができた。</p> <p>△入社試験や入学試験の結果から、本校生徒は「基礎学力」と「コミュニケーションに力」に不安があり、3年間をかけて「基礎学力の再構築から向上」と「社会人基礎力の育成」を進路目標に掲げていることが、間違っていないことを再認識した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力再構築のため、基礎力養成学習の繰り返し学習と基礎力を診断するテストの事前学習にも力を注ぎ、事前学習として朝学習にも取り入れて学習の習慣を高め、基礎学力向上に繋げる。 ○進路ガイダンス等で、夢や希望を叶えるための目標設定を早い段階から意識させるような説明を継続的に行い、学年毎に段階を追ったキャリア教育による進路実現を目指した進路行事をする。 	

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>・今年度の課題研究テーマとして、大垣特別支援学校の生徒たちの意見を取り入れながら、障がい者用教材の作成を行い、12月17日に贈呈式を行い寄贈した。</p> <p>・7月25日に「大工Day」を大垣市内3ヶ所の商業施設で、各学科および理科部の参加により、作品の展示やものづくりなどを体験してもらえる活動を行った。</p> <p>・西濃地区の小中学校の授業の一環として、本校の教員や生徒が講師となって授業を行う「出前授業」について、申込みがあった5テーマについて実施した。</p> <p>・大垣市や各種団体の依頼により、地域で実施される地域おこしのまつりやイベントなどに本校の部活動の成果の発表、ものづくり体験コーナーなどを設置し、地域の人達と交流した。</p>	<p>①他人を思いやれる心を育成し「人にやさしいものづくり」を考える力を深化させることができたか。</p> <p>②生徒が外部の人と対応することにより、実践的なコミュニケーション能力が身に付いたか。</p> <p>③小・中学生に対して工業高校への興味・関心を喚起し、本校の広報の一助とすることができたか。</p> <p>④生徒が外部の人と対応することにより、実践的なコミュニケーション能力が身についたか。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
11	<p>○地域や小中学生・保護者に対し、工業教育並びに大垣工業高校への関心が浸透し、身近に感じてもらえるようになった。</p> <p>○大垣市や地元企業・教育機関との連携により、多くの学習機会を得た生徒たちが、実践力や協調性を学ぶことができた。</p> <p>・ ▲活動が多岐にわたり、職員・生徒の負担が大きくなっている。</p> <p>・ ▲生徒の学習や資格取得、課外活動などに対する取り組み姿勢など、大きな差が見られる。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>・これまで通り、「世界で活躍できる人材の育成」を前面に出し、全ての生徒に対して実践的な力をつけさせる方策を充実させていく。さらに、意欲的な生徒に対しては高度な能力を身につけられるような機会を設定する。</p> <p>・リーディングプロジェクトや飛び出せスーパー専門高校生などの各事業を通して培ってきたものをさらに発展させ、地域や企業・大学等の教育機関との連携を充実し、より多くの生徒が充実感と達成感を持ち、地域に対し本校がものづくり人材育成の場として理解され、積極的な後援を得られるようにする。</p> <p>・ものづくりに強い興味・関心をもち、将来リーダーとして活躍できる意識の高い優秀な人材が集まるような方策を検討する。</p>	

学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>・大工Day、出前授業、および特別支援学校の生徒さんたちへの障がい者用教材の作成など、多岐に渡り生徒の専門的知識を育成、コミュニケーションを核とした人間力の育成する機会を創出している。</p> <p>・生徒たちは、やりがいを感じながら、自身の成長を実感しておりとても素晴らしいと感じた。</p> <p>・専門教育の取り組みは充分評価される。</p> <p>・大垣市との連携は大切だが、毎月生徒、教師ともきついと思われる。回数など検討されてはどうか</p> <p>・専門科の授業（実習授業）は目が輝いているように見える。プログラムの作成等、得意や手先の器用な生徒が多いと感じる。三年生の課題研究発表は内容や発表が素晴らしい。この発表を見て、工業高校に来て良かったと思う生徒が多いと思う。</p>

2 評価する領域・分野	(5) 特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・学校行事の充実について、保護者は8割以上の方が、「あてはまる」と回答し、生徒の回答も8割近くが考えている。昨年の9割を下回ったのは、今年度例年のような文化祭が開催されなかった影響かと思われる。</p> <p>・部活動の活発さについて、生徒は9割5分以上が「あてはまる」と回答しており、変わらぬ充実ぶりがうかがえる。保護者の「あてはまる」の割合も9割。昨年並みではあるが、「活発イコール結果」とは言い難く、本年度はインターハイに出場する部活動がなかった。特別活動部としてもさらなる働き掛けと協力が必要であると思われる。</p> <p>・ボランティア活動の啓発・機会提供について、保護者は7割弱、生徒は7割強が「あてはまる」と回答している。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇豊かな人間性や自ら学び考える力などの「生きる力」や「活力」ある生徒の育成に努める。〈リーダーの養成〉</p> <p>◇生徒が自発的、自治的な活動を展開し、集団や社会の一員としての自覚を深め、自己を生かす能力が育つよう指導・援助を行う。〈所属感の高揚・自主的精神の育成〉</p> <p>◇ホームルーム活動を中心とした特別活動全般を通して、学校生活への適応及び円滑な人間関係の形成を図るとともに、人間としての在り方・生き方に関する指導を充実する。〈ホームルーム活動の活性化〉</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・全職員による行事への参加体制を組織する。</p> <p>・生徒が自発的に活動できる機会を提供し、分掌外職員に呼び掛ける</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>◇生徒会</p> <p>(1) 生徒会活動への積極的な参加・協力を図るため生徒会執行委員会・議会・各種委員会等の活動が円滑に行えるよう指導を行う。</p> <p>(2) 各種生徒会行事への積極的な参加を促し、生徒の学校・学級への所属感及び自発的・実践的な態度を育てる。</p> <p>◇特別活動</p> <p>(1) ホームルーム活動を通じて学級の一員としての自覚を深め、お互いを高め合う人間関係を形成する。</p> <p>(2) 部活動への積極的な参加を促し、達成感及び自己成就感を味わわせることで、自己を生かす能力を育てる。</p>	<p>(1) 生徒総会、球技大会、運動会、特別文化祭等生徒会行事を計画・運営し、円滑に進めることができたか。</p> <p>(2) 生徒総会、球技大会、運動会、特別文化祭等生徒会行事の取り組みに、充実感を覚えたか(アンケートによる)。</p> <p>(1) 球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事に参加するなかで、クラス単位の取り組みに、充実感を覚えたか(アンケートによる)。</p> <p>(2) 年間を通して、部活動に積極的に参加したか</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>◇生徒会</p> <p>・毎週月曜日に定例の執行部会を開き、各種行事に執行部が積極的に関わるよう生徒の自発的な活動を促した。また、各行事の進行原稿や壮行会等のマニュアル作りを生徒会の手にある程度委ね、運営させた。</p> <p>・毎週、火曜日から木曜日を「あいさつ運動」の日として、特活部職員・執行部員・各クラス議員の当番で登校する生徒にあいさつを行った。</p> <p>・生徒総会、球技大会、運動会、特別文化祭等生徒会行事に、取り組んだ。</p> <p>◇特別活動</p>	<p>①定例の執行部会を生徒が自主的に運営でき、各種行事が円滑に行えたか。</p> <p>②生徒のあいさつする習慣は定着したか。</p> <p>③充実感を覚えたか(アンケートによる)</p> <p>④部活動の活性化ができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の部活動実施計画・実施報告の速やかな配布・回収を行った。 ・部活動の表彰伝達・壮行会を執行部や応援団員の生徒の手で行うことで、生徒のリーダーとしての意識を高めた。 ・部活動の活性化を図るため、全校体制で「大工部活動活性化プロジェクト」を実施した。 ・各部の活動状況の報告をとりまとめた。 	<p>⑤1年生の部活動全員加入を実質的に実現できたか</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>11 成果 課題</p>	<p>○生徒総会、球技大会、運動会、特別文化祭等生徒会行事を円滑に運営できた。</p> <p>○特別文化祭に於いては、90周年記念DVDを制作することができた。周囲からの評価も高かった。</p> <p>○執行部の生徒達が、学校行事に関して自ら立案し運営するなど昨年度に比べて積極的に関わることができた。</p> <p>○「大工部活動活性化プロジェクト」を実施したことにより、全校職員との連携が図れた。</p> <p>▲文化祭のあり方（取り組む姿勢）について、文化祭の本校での異議を再検討する必要がある。</p> <p>▲表彰伝達式、壮行会の運営・取り組みについて工夫が必要である。</p>	<p>総合評価 A (B) C D</p>

学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・90周年記念DVDは、大垣工業高校を知ってもらうために、学科の紹介や各種競技会への参加および成績を紹介するなど、大変、良くできたものであったと思う。 ・特別文化祭は落語であったが、日本の伝統文芸を知る意味でも、大変意義深いイベントであったと思う。扇子や玉すだれなどの小道具の意味、特に玉すだれは、生徒にとって新鮮であったと思う。 ・部活動の成果が新聞で見られ、工業高校は多くの部活が活躍している。技術だけでなく精神面の努力を期待する。 ・資格関係の学習があるなかで、生徒たちが特別活動にも取り組んでいる様子が、新聞等からもみてとれる。このまま頑張ってもらいたい。 ・地域の運動会、地区センター祭り等に太鼓演奏をお願いし、地域住民を楽しませてくれた。

<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>(6) 渉外</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>《アンケート結果より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から地区懇談会に代わり学年懇談会を実施した。「実習棟の見学ができ、子供が実際に学習する環境が分って良かった。」や「生徒指導・進路指導・修学旅行の話が聞けて良かった。」という意見を多くいただき全体的には良い成果が得られた。今年度は開催時期を学年によって行事を考慮し調整した。来年度も同じように実施したい。 ・本年度は創立90周年記念事業を渉外部を中心に開催し、各方面より高い評価をいただくことが出来た。 ・学校の施設・設備は県安全振興会30周年記念事業より多額の経費を受け、防災設備を中心に配置を行い、生徒の安全に対し設備の充実ができた。 ・朝学習が継続して行われており、生徒が落ち着いた姿勢で取り組む姿勢が見え、学習環境の面でほぼ満足できる。
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>◇ 育友会員（保護者）に、学校教育活動を通して生徒の様子や実態について正しい認識を持ってもらい、学校行事などで積極的な協力が得られるように努める。</p>

	◇ 保護者との連絡を密にし、家庭や地域での生徒の健全な育成に努める。 ◇ 創立90周年記念事業に向けて学校と育友会が一致団結して取り組めるよう計画する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・ 渉外部職員の意識を高め、校内の各分掌と連携を図りながら、全職員の協力のもとで組織的に運営する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 育友会への参加を意味あるものとし、会員の出席が増加するように工夫する。 (2) 学校行事への参加の在り方を工夫し保護者の理解を得て積極的な参加を促し、育友会の各委員会の活動をもっと積極的にする。 (3) 渉外部として創立90周年記念事業が成功できるよう積極的に育友会へ働きかける。	(1) より多くの育友会員(保護者)に育友会行事に参加して頂けるかが判定基準となる。(携帯メールの積極的活用)育友会の行事を理解いただき、各行事へ積極的な運営を促す。 (2) (1)と同様 (3) 創立90周年記念事業が成功できるよう工夫し、積極的に育友会としての参加できたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・ 学年懇談会では、学年ごとに話題と開催日を考慮し生徒の生活や進路等、直面する内容をふまえた結果、高い出席率となった。 ・ 創立90周年記念事業において、同窓会との連絡を密に、役員との協力体制を前面にした取り組みをした。 ・ 事故発生時の適切な処置および全高P連賠償責任補償制度(生徒賠償責任保険、PTA管理者賠償責任保険)の全員加入をした。	① 事前の打合せや反省会にも多くの出席者が得られ、保護者からの提言や学校からの情報発信のよい機会となった。 ② 同窓会役員、育友会員(保護者)の多くの方の協力が得られた。	Ⓐ B C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D
11 成果課題	○カレンダーは4月初旬に活用できるようにする関係で4月の始業日に全員に配布した。 ○家庭と学校との連携を効率的で活発な場とすることにより、相互理解と健全な生徒の育成に努められた。また、懇談会で話し合われた内容については、学校の関係分掌で再確認し、部活動の成果をまとめた育友会広報誌(わかもり)を各家庭に配布した。 ・ ○本年度は創立90周年記念事業もあり、同窓会、育友会役員との打ち合わせを綿密に行った。学校をあげて、職員、生徒全員が役割を自覚し参加していただき多くの成果が得られ、来場者も多く成功に終わった。	
12 来年度に向けての改善方策案	◇ 育友会総会の出席率向上のために、過去数年間工夫をしているが、変化が少ない。携帯メールやホームページを有効に活用してさらに出席率を向上させたい。(特に2,3年生) ◇ 育友会に関しても携帯メールを使った広報活動を継続的に進めたい。 ◇ 生徒の地域貢献活動に対して積極的な参加(育友会行事)を検討している。 ◇ 防災に関する取組を同窓会・育友会と協力し積極的に進めたい。	
	総合評価 Ⓐ B C D	

・創立90周年記念事業に参加させていただいた。これまでの歴史を在校生が敬い、誇りをもって受け継いでいることが強くわかる、とても素晴らしい式典だった。
 ・生徒を育てるには育友会の協力が欠かせない。特に部活動等が活発になるよう、保護者との連携を深めたい。

2 評価する領域・分野	(7) 「保健・健康管理」	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生活習慣の確立と体力の向上 ◇健康・安全に関する教育の推進と事故の未然防止 ◇体育施設の充実と安全点検 ◇集団行動の徹底 ◇職員厚生の実施	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校保健委員会 ・校内保健委員会 ・科内会議（養護教諭参加）	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 自己の体力等を把握し、適正な運動実践をとうして体力の向上に努める。 (2) 保健だよりなど必要に応じて、全校生徒並びに職員に配布し、健康に関する情報提供や予防を呼びかける。また、うがいや手洗いの励行を促すとともに、教室や職員室に消毒液を常置し周囲を喚起する。 (3) 学校施設等を定期的に点検。 (4) 学校行事や全校集会等において、秩序ある集団行動を心がける。 (5) 職員研修会の内容の充実。	(1) 欠席数等の統計、新体力テストの結果データ (2) 健康診断結果、事後措置。 (3) 点検・修繕日誌、施設使用簿 (4) 集合整列の時間短縮 (5) 参加者の人数、活性化	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・生徒一人一人の能力、適正等に応じた指導内容の重点化を図る。 ・保健だよりを定期的に全校生徒に配布したり、健康に関する情報提供や安全行動を全校集会などで呼びかけた。また、全校集会でパワーポイントを使用し、手洗いの励行を促すとともに、職員室や教室に消毒液を置き注意を喚起した。 ・学校施設等を定期的に点検した。部室や器具庫の鍵の管理を徹底した。 ・学校行事や全校集会等において、秩序ある集団行動を実践した。 ・定期考査中に職員研修会を実施した。2回	① 適正な運動実践を通して体力の向上に努めることができたかどうか ② 健康に対する意識を高めることができたかどうか ③ 施設を合理的、効果的に利用できたかどうか ④ 集団行動の必要性が理解できたかどうか ⑤ 職員間の親睦と活性化が図れたかどうか	A (B) C D A (B) C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D
11 成果	○定期的な保健だよりのほかに、全校集会でパワーポイントを使って、手洗いの大切さを伝えた。 ○救急法の講習会の時期を夏休みの最後に行っていたが、環境整備と協議し、	総合評価

<p>・課題</p>	<p>夏休み前に行うことによって様々な対応が出来るように心掛けた。 ○体育施設を定期的に点検し、事務室との連携により修理・補修することが出来た。（今年は体育館の防球ネットを修理した） ○集団行動は、学校行事や全校集会等において、概ね時間より早く集合・整列しスムーズに進行することが出来た。 ▲新体力テストの経年変化は、2年生・3年生では全ての種目で記録が向上した。また、全国平均を下回った種目は、2年生で握力・長座体前屈・シャトルラン・50M走、3年生で握力・長座体前屈・シャトルラン、1年生は握力・上体起こし・シャトルラン・50M走の種目とやや能力の低さを感じる結果であった。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力を向上させ、新体力テストにおいてレベルアップを図るために、カリキュラムの見直し、授業内容の検討を続けていきたい。 ・全校生徒・職員に対し健康に関する情報提供・予防の呼びかけを工夫し、健康に対する意識を高めていきたい。 ・部活動や施設の安全点検表を定期的に提出するようにし、事故の未然防止に努めたい。 ・職員の厚生活動を充実させ（期日・内容等）親睦と活性化を図りたい。 ・全職員による行事への参加体制を組織していきたい。 		

学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭をみせて頂きましたが、集合、整列いずれも、全員が、集団行動として規律のあるキビキビとした動きをしていたことに感心した。 ・心と体の健康、生活習慣、規則正しい生活が難しい。朝食抜きや夜型生活にならないよう、目的や良い友人を持ってほしい。
--

<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>(8) 環境管理</p>
<p>3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・生徒アンケートで「地震や台風などの場合の対応について生徒や保護者（地域）に対策マニュアルが知らされている。」に対し91%の生徒が肯定し、保護者においても94%が肯定している。メール配信も浸透するなど効果が上がっている。 ・生徒アンケートでは「施設・設備は学習環境の面でほぼ満足」が74%に対し「清掃が行き届いており校内がきれい」では、67%となっており、美化意識の一層の向上が望まれる。 「ボランティア活動の大切さ教え、その機会を提供している」では、63%の生徒が肯定している。同じ質問に対し、保護者からの肯定的回答は70%で地域清掃活動などへの参加を促したい。
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>◇明るく清潔な学校生活（学習環境）を樹立していくために、全校生徒一人ひとりが美化意識を持ち、自覚ある行動がとれるよう推進する。 公共物などを大切にする心と、有効に活用できる技能を育成するとともに安全管理を徹底する。</p>
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌会議（環境管理部）→企画委員会→職員会議 ・環境美化係（環境委員会顧問）→環境委員会（各クラス1年生は2名、2、3年は1名）→全校生徒

<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 清掃活動を教育の一環としてとらえ、授業と同様、挨拶からはじめ、しっかりと取り組み、きれいになったことの喜びを知ること、ボランティア精神を啓発したい。</p> <p>(2) 命を守る訓練を通して、命の大切さを自覚させる。また、消防署と連携して訓練・研修の充実に努める。</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) すべての清掃場所で整列・挨拶ができるようになったか。また、アンケートの結果より学校がより美しく整備されていると実感できるか。</p> <p>(2) 命を守る訓練において機敏で命を守ることができるような行動ができたか。またそのような意識が植え付けられたか。</p>	
<p>8 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動への取り組みは年度当初にすべての職員に共通理解が得られるようお願いすることが最重要ととらえ、職員会議でお願いした。 ・地域清掃活動も天候に恵まれ、成果はあった。 <p>ただし、今年も地域の方々の参加は見合わせていただいた。(暑さと健康に配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練、防災研修会は例年通り実施した。 ・安全点検の実施。 	<p>9 評価視点</p> <p>①清掃活動が、学校全体としてしっかりできたか。</p> <p>②ボランティア活動が充実したか。</p> <p>③非常時への心構えができたか。</p> <p>④安全点検表での実施は徹底できたか。</p>	<p>10 評価</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>11 成果課題</p>	<p>○本年度のアンケート結果では「清掃が行き届いており校内がきれい」67%、「施設・設備は学習環境の面でほぼ満足」74%、「ボランティア活動の大切さを教え、その機会を提供」63%と、昨年より若干下回っている。清掃活動においては美化意識の向上に努めたい。</p> <p>○7月の地域清掃には、ほとんどの部活動が参加し、地域とのつながりを深めたのではないかと判断する。</p> <p>○環境委員は清掃活動等よく責任を果たした。</p> <p>○安全点検表による安全点検を実施したが期日を守っている部署が少ない。</p> <p>▲命を守る訓練、防災研修会は、予算の関係で外部講師による指導はできなかったが、今年も職員が講師となり、実施することができた。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動への取り組みは、生徒の美化意識の向上をさらに図る必要がある。 ・防災研修会は、熟知した教員(杉山先生)のもとに実施できたが、来年度については未定。 ・命を守る訓練は避難訓練のみの実施。シェイクアウト訓練などで防災意識を高めたい。 ・救命法講習は多くの先生に参加していただきたい。 		

学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さもすると、教育だけに偏りがちな学校もあるなか、生徒自身に清潔な学校生活をおくるための美化意識を醸成する、また先生による安全訓練が実施されるなど、学校全体で積極的に取り組まれていることが成果を産んでおり、感心した。 ・掃除道具の整備や校内の清掃が行き届いている。生徒は掃除を自ら行ったり、掃除の時間に当番が灯油を運んだりし、よい環境で学べるよう努力されている。 ・災害時における、地域との連携、とりわけ体力がある生徒たちの地域への支援など、今後検討されたいらどうか。 ・校外清掃活動ができている。 ・防災に関する行動等を地域の方々にも参加できるように進めてほしい。
--

2 評価する領域・分野	(9) 図書	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・特になし。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇心豊かな人間性の育成をめざし、生徒があらゆる機会とあらゆる場所をとおして本と親しみ、本を楽しむことができる環境を整備し、読書指導にあたる。 ◇生徒の主体的、自律的な学習活動を支援する学習・情報センターとして図書館の施設・設備の活用を図り、情報化社会に対応した図書館教育を推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書館教育研究会の設置	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 朝読書週間および校内読書感想文コンクールの開催・POPへの応募 (2) 図書館管理システムや調べ学習などにおけるインターネットの利用など情報化社会に対応 (3) 図書資料・視聴覚機器等の充実	(1) 読書感想文の取り組み状況および外部コンクールにおける評価 (2) 書籍の貸し出し状況および授業等における図書館利用状況 (3) 各分野バランスのとれた蔵書の充実	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・新入生の図書館オリエンテーションを実施したほか「図書館だより」「新着案内」を発行 ・全職員の協力を得て朝読書と校内読書コンクール・POP応募を実施 ・視聴覚室の管理、教材、機器の管理に努める。	①図書館利用状況 ②生徒の取り組み状況 ③視聴覚室 視聴覚機器等利用状況	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果	総合評価	
○校内読書感想文コンクールおよび朝読書に対し全職員の協力が得られた。 ○多数の図書委員がPOPコンテストに応募した。 ○授業時や放課後等、学習・情報センターとして利用された。 ・○育友会費より予算として10万円付けて頂いた為、生徒からのリクエスト本を購入する事ができた。 ▲利用している生徒が固定化する傾向がある。利用される書籍はライトノベルが中心で、読書の「質」の向上に向けた指導が、今後も必要である。 ▲現代に即した、視聴覚機器の整備やコンピュータ機器の整備	A (B) C D	

学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月26日

【意見・要望・評価等】

- ・図書に関しては、生徒に興味をもってもらうことが第一であることとしたアプローチは正しいと思う。図書の利用者が固定化しても良く、そこよりの拡大が課題だと思う。
- ・調べ学習、面白い読み物の両面の好きの生徒に育ててほしい。
- ・ライトノベル以外の読書への誘いを工夫されたい。